



WATAKYU SEIMOA

ワタキュー グループ
こころレポート

2013–2014

CSR Report

全ての人の健康と豊かな生活に寄与し、 社会に貢献していきます。

ワタキューグループは、医療・福祉の現場を総合的にサポートする多様なサービスを提供しています。そのさまざまな事業を通じて、全ての人の健康で豊かな生活に寄与すること、お客さまの要望に誠意を持って応え、高品質できめ細やかなサービスの提供を絶え間なく続けることが使命であり、事業を永続的に発展させ社会に貢献していくことが、ワタキューグループの社会的責任であると考えています。

ワタキューグループの事業は、リネンを洗濯しお客さまにお届けする、食事をつくりお客さまに召し上がるといった、シンプルなものかもしれません。しかし、安心安全のための品質管理、環境への配慮や公正な調達、働きやすい職場環境の整備や、地域とのコミュニケーションの深化など、事業に関わるさまざまな課題に取り組むことが、人々の日々の暮らしや社会への貢献につながる、奥深いものだと思います。

次の大きな節目である創業150周年の2022年においても、もっと多くの貢献が果たせるように努力しなければなりません。その基盤となるグループの事業そのものをさらに拡充することが、私たちに課せられた大きな責務であると考えています。2022年には、病院や福祉施設に医療や介護行為以外のサービスを包括的に提供する「セイモアシステム」をコアに、グループの総力を挙げて売上高1兆円のグループを目指します。

その実現のためにも、ワタキューの「心」を持った人材の育成が、特に重要になってまいります。企業は人なりと申しますが、ワタキューとしての「教育」が永遠のテーマであり、最重要課題です。原点となる「ワタキューグループ基本方針」を徹底していくためにも、グループ独自の教育システムである「一心館」での研修をはじめ、これからも人材育成に力を入れてまいります。

また2012年には、地域とのコミュニケーションをより活性化するために、創業140周年記念としてさまざまな地域貢献事業を行いました。特に創業の地である京都府井手町に対しては、地域の皆さんにこれまで会社を大きくしていただいた感謝の意味を込めて、文化事業協力や、森林保全支援活動を続けている町内の大正池への記念植樹などを行いました。

全ての社員が、感謝の気持ちを持って仕事に取り組み、世の中の役に立っていることを実感でき、誇りを持って「ワタキューグループで働いていて良かった」と思える企業を目指したい。そのためにも今一度、創業時の原点に立ち戻り、「感謝の気持ちと謙虚な姿勢」を忘れることなく、目標に向かう一つのチームとして、お客さま、お取引会社さまとともに、日本における医療福祉のベストパートナーとなれるよう、挑戦し続けたいと思います。

代表取締役社長

安道光二



読者の皆さまへ

「ワタキューグループ基本方針」を規範とする考え方や取り組みをわかりやすく報告するこの「こころレポート」は、皆さんからご意見をいただいて企業活動に反映させるためのコミュニケーションツールでもあります。

今回は、特別対談をはじめ、ワタキューグループに関わる「人」のことばを通じて、私たちの取り組みや想いをわかりやすくお伝えできればと考えました。

「こころレポート」の活用により、皆さまとのさらなる信頼関係の構築・維持に努め、持続可能な社会の実現に貢献できる企業グループを目指します。

編集方針

「ワタキューグループ基本方針」に基づき、ステークホルダーごとの取り組みを報告する形で構成しています。

各章の基本的な考え方は不变であるため、2011年度版(2011年11月発行)の内容を引き続き掲載している部分があります。

※参考ガイドライン：環境報告ガイドライン(2012年版)

INDEX

社長メッセージ	1
読者の皆さまへ／編集方針／企業概要／財務データ	2
基本方針／経営理念／グループ会社紹介	3
ワタキューグループのCSR／行動憲章	5
CSR経営	7
特別対談 ：皆さまの役に立つこと。 それがワタキューの社会的責任。	9
古川貞二郎氏(元内閣官房副長官) × 笠間治雄氏(前検事総長)	
140周年記念活動	
創業の地・井手町とともに歩んだ ワタキューグループの140年	11
社員とともに	
ワタキューグループ研修施設 「一心館」の取り組み	13
お客さまとともに	
日清医療食品 安全・安心の取り組み	15
地球とともに	
ワタキューセイモア 地球環境を守るための取り組み	17
地域・社会とともに	
フロンティア薬局の店舗づくり／日清医療食品「食宅便」 ワタキューセイモアソフトテニス部／北陸リネックス	19 21

企業概要

会 社 名	ワタキューセイモア株式会社
創 壽 業	1872年10月
会 社 設 立	1962年7月
資 本 金	4,850万円
社 員 数	79,849名(連結／2013年6月15日現在)
取 引 銀 行	三井住友銀行／みずほ銀行／三菱東京UFJ銀行 南都銀行 他
主要仕入先	伊藤忠商事(株)／倉敷紡績(株)／シキボウ(株) ユニ・チャーム(株)／ナガイレーベン(株) パラマウントベッド(株)／(株)トンボ (株)東京洗染機械製作所／住商アイナックス(株) 東都フォルダー工業(株)／三浦工業(株) 他

財務データ(連結)



必要とされる職場に 必要な人材を。

医療・福祉・健康の分野を専門能力と総合力でサポートします

日々の仕事を通じて、心がふれあうおつきあいを。

そんな想いを胸に、全国で約80,000名のスタッフが持てる能力をフルに生かして、業務を行っています。
一つひとつのサービスに込められているのは、ワタキューグループの社是「心」です。

【ワタキューグループ基本方針】

私達は創業時の原点にたち還り

- お客様には仕事をさせて頂いている
- 仕入先には売って頂いている
- 協力企業の方々には仕事をして頂いている
- 会社のみなさんには働いて頂いている

という感謝の気持ちと謙虚な姿勢で何事にも接する社風を醸成するとともに、

誰もが思いやりの心を持ち、互いに協力し、人に誇れる

立派な会社に勤めて良かったと思えるグループにする。

以上を礎としてワタキューグループの強固な石垣を構築するため

社是を「心」とする。

【ワタキューグループ経営理念】

我々は企業の存在理由は社会貢献にある事を基礎とし

企業を通じてすべての人びとの健康と豊かな生活に寄与するべく

技術機能を発揮し顧客の要望に誠意をもって応え

最高の品質サービスの提供を続け信頼を得て永遠に会社の発展を目指す

創業時の原点にたち還り時代の変化に対応しつつ

たゆまぬ努力と活動をもって経営基盤の確立と拡大を推進し

社会に報いると共に全社員の生活向上安定を計る事を理想とする

主要グループ会社紹介

ワタキューセイモア（株）

- リネンサプライをはじめ設備備品サプライ、管理・請負業務、売店運営など、施設内の業務をトータルにサポート

<http://www.watakyu.co.jp/>

日清医療食品（株）

- 医療・福祉施設向け給食の受託
- 医療・福祉施設向け食材等販売業務
- 在宅配食サービス事業

<http://www.nifs.co.jp/>

綿久リネン（株）

- ホテル・レストラン向け
リネンサプライ
- ダストコントロール用品の
リース・販売

<http://www.watakyu-linen.co.jp/>

（株）フロンティア

- 院外調剤薬局の経営
- 介護保険における福祉用具のレンタル
- 福祉用具・介護用品の販売
- 在宅介護における住宅改修

<http://www.frontier-ph.com/>

古久根建設（株）

- 総合建設業（建築・土木）
- 医療・福祉施設のコンサルティング

<http://www.kokune.co.jp/>



**WATAKYU
GROUP**

（株）セイモア

- 医療施設および福祉施設に関する
経営コンサルティング業務
- 医療関連サービスのトータル
コーディネート業務

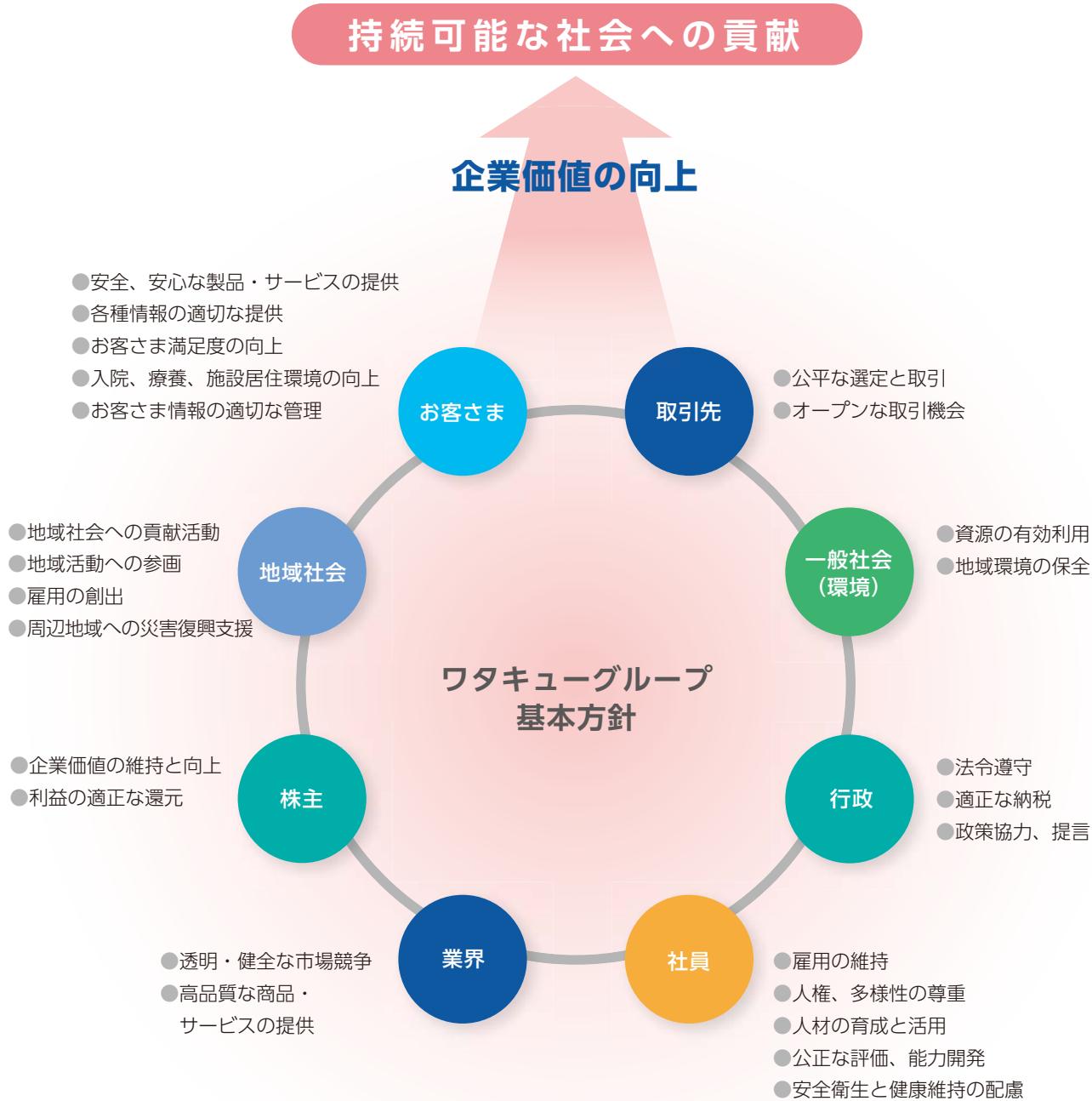
（株）メディカル・プラネット

- 医療業界への人材紹介・派遣業務
- 教育・研修業務、コンサルティング業務
- 医事関連業務および病院一般事務の受託

<http://corp.medicalplanet.co.jp/>

オンリーワン企業として、地球、地域、職場 それぞれの環境向上に貢献します。

企業活動を通じて社会に貢献すること——ワタキューグループの基本方針である感謝の気持ちと謙虚な姿勢を持って、
身近な環境から地球全体の環境まで、社員一人ひとりが考え、行動し、医療と福祉に携わる企業として、
持続可能な社会の実現に寄与していきます。



ワタキューセイモア行動憲章 | ワタキューセイモア株式会社

私たちは自らの企業使命を自覚し、お客さま、お取引先、役員・社員、業界、行政、地域社会、一般社会などのステークホルダーに対して、以下の行動憲章を定めこれを遵守することを宣言します。

お客さまに対する姿勢

- 私たちは、常にお客さまの視点からの事業を創造し、お客さまの立場で仕事に取り組んでいきます。
- 私たちは、私たちの商品・サービスを利用してくださる方々へ安全と安心をお届けします。
- 私たちは、お客さまのプライバシーを厳守します。

取引先に対する姿勢

- 私たちは、お取引先を大切なパートナーとして尊重します。
- 私たちは、お取引先との契約に基づく対等な関係を維持します。
- 私たちは、公正で適正な取引を行います。

社員に対する姿勢

- 私たちは、性・年齢・役職・学歴等で分け隔てすることなくお互いを共に働く仲間として尊重します。
- 私たちは、いずれの職場にあっても会社と仕事に誇りを持ち前向きに取り組みます。
- 私たちは、一人ひとりが担うべき事項について責任を果たします。

株主に対する姿勢

- 私たちは、積極的に情報を開示して、透明性の高い経営を目指します。
- 私たちは、事業活動を通じて健全な利益を生み出します。
- 私たちは、企業活動の説明責任を負い、その理解を促進します。

業界に対する姿勢

- 私たちは、自由で透明、健全な市場競争を行います。
- 私たちは、他社の正当な権利・財産を尊重し、自社の正当な権利・財産の保護に努めます。
- 私たちは、高品質の商品・サービスを提供し、その必要性と利便性を訴求します。

行政に対する姿勢

- 私たちは、関係法令の遵守および社会的な良識を備えた企業活動を進めます。
- 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、一切の関係を遮断します。
- 私たちは、適正な会計基準に則り、会計報告に虚偽等がないように努めます。

地域社会に対する姿勢

- 私たちは、その地域社会の文化や規範を尊重し、地域の発展に貢献します。
- 私たちは、地域社会の一員として、地域行事等に参加します。

一般社会に対する姿勢

- 私たちは、社員一人ひとりが社会貢献を考え行動します。
- 私たちは、身近にある環境問題に対応し行動します。
- 私たちは、循環型社会に適応した備品等を利用し、資源の保護に努めます。

健全な企業経営を行うために。

弊社の事業活動はさまざまな形で社会と関係しており、健全な企業経営を行うためには、お客さま、お取引先、社員をはじめとする数多くのステークホルダーの皆さまから信頼を得る取り組みを積極的に展開することが重要と考えています。

3つのテーマを据えて コーポレートガバナンス体制を充実させています

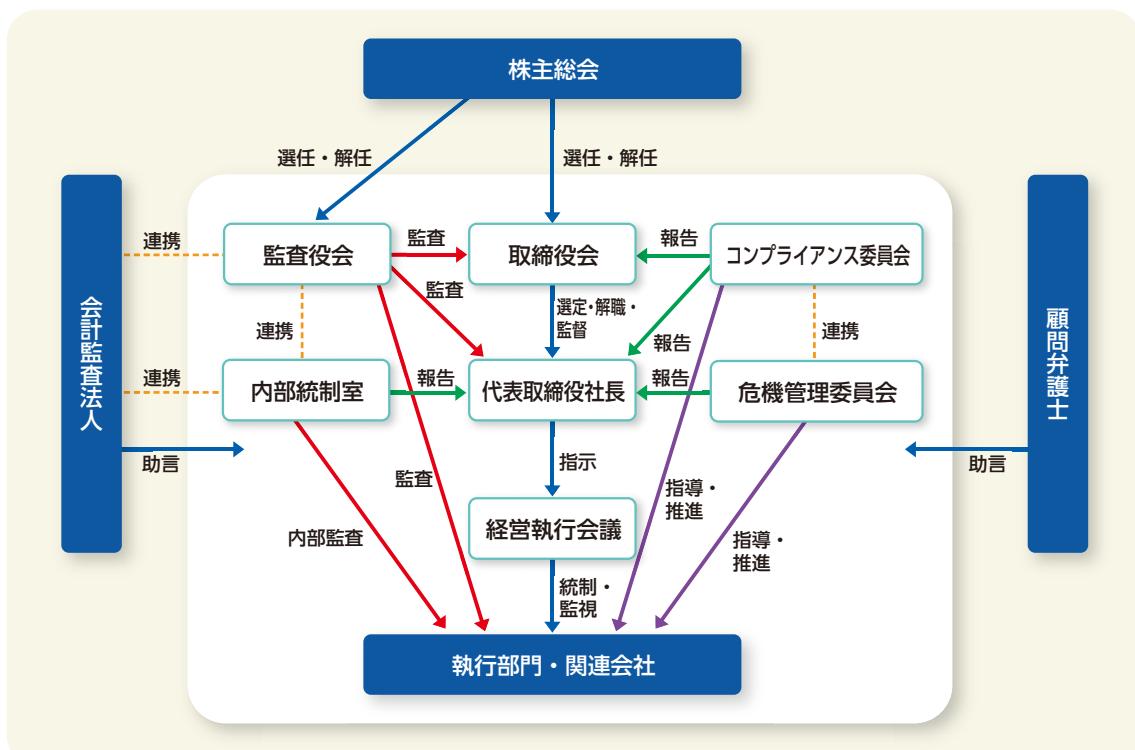
ワタキューセイモアは現在、コーポレートガバナンスとして、「企業の公正性・透明性の向上」「意思決定プロセスの徹底」「コンプライアンスの徹底」の3つを取り組みを進めています。

今後も社は「心」の基本方針に則り、ステークホルダーの皆さまから信頼され成長を続けるためにコーポレートガバナンスを充実させていきます。

監査には社外からも参画、 執行状況を確認しています

弊社では、2006年9月に執行役員制度を導入しました。監査は、監査役会（社外監査役3名を含む）と外部の会計監査法人が行います。加えて内部統制室の内部監査部門が、業務監査により執行状況を確認しています。

●コーポレートガバナンス体制図



詳しくは…

弊社のホームページの CSR サイトをご覧ください

<http://www.watakyu.co.jp/csr/index.html>

適正業務がなされているか、 権限を持った内部統制室が監査・調査を実施

弊社では、業務を適正に執行し、さらにはその体制を維持していくために、社長直轄の内部統制室を設置しています。適正な財務報告・社会法規や社内規程に基づく業務・公正な商慣行の遂行・基本方針の実践・経営方針に沿った業務などが主な監査や調査の対象です。監査・調査の結果は社長に報告し、これを受けた社長が自ら改善や是正などの指示を発することで、適正業務の確保を図ります。

危機管理マニュアルやセミナーでリスクマネジメント・啓発を実施 万が一のときは緊急対策本部を設置

弊社では、リスクマネジメントを健全経営のための大切な活動としてとらえています。危機管理委員会が中心となり、危機管理マニュアルの作成やグループ全体を対象とした危機管理セミナーの定期的な開催など、事象に対する啓発活動を行っています。万が一のときには、設置基準に基づいて緊急対策本部を設置し、社長が指名した本部長を中心に発生した事象に適切に対応、問題の早期解決を図ります。「発生の予防」と「発生後の対応」の両面から取り組みを進めています。

社員研修などで遵法意識を徹底 重要な問題は委員会で審議

弊社では、社員研修やマニュアルの配布を行い、遵法意識を教育しています。さらに内部統制システムの稼働による調査や重要な問題を審議する社内コンプライアンス委員会の設置により、法令遵守の徹底を図っています。コンプライアンス委員会は、審議の結果を取締役会に報告し、対策案などを提言する役割を果たします。

内部情報共有システムやTV会議で 情報セキュリティの周知を徹底

弊社では、情報セキュリティに関する規程を作成し、IT統制を行っています。また、全社員がいつでもアクセスできる内部情報共有システムで公開しています。クラウドやリモートアクセス、タブレット端末の利用といった事項に関する規程も追加し、隨時更新しています。特に重要な事項については冊子の配布やTV会議システムの使用などによる社員教育を実施し、内容の周知徹底を図っています。タブレット端末については、一元管理することでウイルス感染と情報の漏えい防止、双方の対策を実施しています。

皆さまの役に立つこと。 それがワタキューの社会的責任。

地方・中央の厚生労働行政、さらには内閣官房で政府の中核において行政官のトップとして活躍された古川名誉顧問、かたや秋霜烈日、司法の世界において活躍された笠間特別顧問。社会の、人の裏表をつぶさに見てきたお二人に、ワタキューングループの社会的責任について意見を交わしていただきました。



名誉顧問

古川 貞二郎氏（元内閣官房副長官）

1934年9月佐賀県生まれ。1958年九州大学法学部卒業、長崎県庁入庁。その後、1960年厚生省入省。内閣官房首席内閣参考官、保険局長、厚生事務次官、厚生省顧問を経て、1995年内閣官房副長官（在任期間は歴代最長の8年7ヶ月）。2003年9月退官。現在、社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会理事長、東京都社会福祉協議会会长。2005年よりワタキューングループ名誉顧問。



特別顧問

笠間 治雄氏（前検事総長）

1948年1月愛知県生まれ。1970年3月中央大学法学部卒業。東京地方検察庁検事を初任とし、東京地方検察庁特別捜査部部長、東京高等検察庁次席検事、最高検察庁次長検事、広島高等検察庁検事長、東京高等検察庁検事長を経て2010年12月検事総長。2012年7月の退官後、笠間法律事務所（第一東京弁護士会）を開設。2012年10月よりワタキューングループ特別顧問、日清医療食品株式会社特別顧問。

社会の課題と企業の責任

古川：まず最初に、私がなぜこのワタキューングループの顧問をお引き受けしたかというお話をさせていただけたらと思います。この話は、昨今いろいろなところで使われている「企業の社会的責任」というもののあり方を示す、一つの答えにつながるのではないかと考えているからです。

私は佐賀県の春日村という農村に生まれました。今は市町村合併で佐賀市になった村で、近くに唐津炭田小城炭鉱がありました。昭和30年代の半ばには、エネルギー効率が良くコストの低い石油の登場で、石炭への需要が激減し、各地の炭鉱が次々と閉山していったのです。小城炭鉱も

例外ではなく1962（昭和37）年に閉山となりました。私が厚生省（現厚生労働省）に入省して2年目のころです。

九州地区ばかりでなく、日本全国の炭鉱は閉山に伴い失業者であふれ、社会問題になっていました。私の友人の身内に小城炭鉱の人事担当者がおり、その友人を通じていろいろ苦労話を聞き、心を痛めておりました。

笠間：私は当時、高校入学前の年頃でしたが、私の父が、炭鉱で使用するダイナマイトを製造する企業の技術者だったので、石油エネルギーの台頭による石炭産業の衰退と炭鉱労働者の失業問題については、よく聞かされた覚えがあります。

古川：ええ、高度経済成長の一方で、いろいろな社会問題が湧出してきました時期もありました。この小城炭鉱の閉山で失業を余儀なくされた炭鉱労働者を、新規事業の雇用にと目をつけたのが、実は綿久寝具株式会社（現ワタキューセイモア）でした。1962年当時、病院基準寝具という制度が法制化されたのですが、入院施設を持つ医療機関への貸布団とクリーニングをワタキューが一括してお世話をする事業を拡大し始めたときでした。ワタキューは佐賀県を九州地区の拠点に据え、小城炭坑で働いていた方を中心に戸建てを多く炭鉱労働者を雇ったのです。関係者にとってはありがたいことで、このことがずっと私の記憶の中にとどまっていました。

笠間：古川先生のお話を伺い、綿久寝具の支店や工場が、早くも1963（昭和38）年に佐賀県に開設された事情がよく理解できました。

古川：先ほど企業の社会的責任と申しましたが、この本質は、本業を通じた社会的な価値の提供と、安定した雇用の創出だと思います。ワタキューグループは、この社会的な価値の提供という点において、現在の日本の抱える高齢化とそれに付随する医療・健康の課題解決に通じる事業を行っています。つまり、入院患者の皆さまや施設を利用される方の暮らしに有用なサービスを提供している、この価値の提供と雇用の創出をきちんとやっている企業だと思います。このような社会的に有用な会社に私が少しでもお役に立つのであればと、喜んで顧問をお引き受けしたのです。

笠間：私の場合には、縁あってワタキューセイモア・日清医療食品両社の顧問に就任させていただいたことを契機に、ワタキューグループが古川先生のおっしゃるとおり社会的責任を立派に果たしている企業であるとの認識を持つに至りました。私は、刑事司法という狭い世界に生きてきましたので、絶えず企業価値を高め社会的に有用な事業を継続し発展させていかなければならないという厳しい宿命を持つ民間企業のために、いかほどのことができるのか心許ない限りではありますが、ワタキューグループのお役に立つことができればうれしいという気持ちであります。

社会の、人々の役に立つ

古川：笠間さんは、検事、弁護士と司法の世界でずっとやってこられました。私は厚生行政をずっとやってきて、最後は総理官邸で行政全体の仕事をやってきたわけですが、その時代時代で、課題となることや、仕事に求められることがだいぶ変わってきました。特に最近は、それが広範囲におよび、多様なものになってきたように思います。



笠間：仕事に求められることの変化という視点からいえば、単に社会的価値があると信じる仕事をすればよいという時代から、株主、債権者、顧客、社員、地域社会などあらゆるステークホルダー（利害関係者）を納得させるように、公正・適正な手続きを踏み、しかもそのことが検証可能なように適時に情報公開をしながら業務を遂行しなければならない時代になったということが大きいと思います。そういう環境の中で、社会の変化をにらみながら、手続き面だけではなく実質面でも企業の提供するサービスの社会的価値を維持・向上させていくということは、大変難しいことであると思います。

古川：ただ単に、ニーズに合わせて事業の多角化を進めるということではなく、そのためには一種の経営の信念、言い換えれば、いかにして人々の暮らしに役に立つかをきちんと考へるかが大切で、そのことを経営者は広く世の中に、そして社員一人ひとりにきちんと伝え、理解してもらうことがとても大切だということですね。

ワタキューグループは、先にも申しましたように、日本が迎えている少子高齢化にまつわるさまざまな社会課題に対して事業を通じてしっかり役割を果たそうとしています。この事業を永続的に推進することで、雇用を確保し、社会の役に立つ役割を果たしていく。そしてそれを目指すために「感謝の気持ちと謙虚な姿勢を決して忘れない」という強い思いを込めた社は「心」を定めているのです。このことを深く自覚し、幹部はもとより、社員一人ひとりが一丸となって日常の仕事に取り組んでもらいたいですね。



創業の地・井手町とともに歩んだ ワタキューグループの140年

ワタキューセイモアは、2008年9月から「京都モデルフォレスト運動」に参加し、創業の地である京都府井手町の本社に程近い大正池周辺の間伐作業や下草刈りの活動を継続して行う協定を、京都府など5者共同で結びました。春と秋の年2回、地元の皆さんとともに100名以上が参加して、森林保全支援活動を実施しています。

2012年には、創業140周年記念事業の一環として、大正池において記念植樹祭を開催したほか、さまざまな取り組みを行いました。



創業140周年記念事業として、
記念石碑の除幕式と記念植樹を開催



記念植樹では140周年に
ちなんで140本の苗木を新たに植樹



自分たちでドングリから
2年かけて育てた苗木



間伐、玉切りなどの
森林整備に取り組む



間伐した木を使って炭焼きにも挑戦

創業の地・井手町への恩返し

1966年に入社し、すでに定年を迎ましたが、高齢者雇用制度で引き続き勤務しており、140周年記念式典の際には対象者を代表して、永年勤続表彰をいただきました。

私は、創業の地である井手町で、弊社の社員である両親の間に生まれ育ちました。ワタキューには物心ついたころから「街のふとん屋さん」として慣れ親しみ、弟と妹も入社した、まさに「ワタキュー一家」です。家族そろって社員という家は、井手町では珍しくなく、町全体が「ワタキューファミリー」のようなものです。

また、資材部係長として責任ある仕事を任せられ、活躍の場を与えていただきました。会長・社長をはじめ、上司の方々に恵まれて本当に充実した毎日を過ごすことができました。

これからも、私を育んでくれた会社にも町にも、精一杯恩返しをさせていただきたいと思っています。

ワタキューセイモア株式会社 会長・社長室
佐々木 礼子



その他の取り組み

ワタキューセイモアは、大正池の森林保全支援活動以外にも創業地・井手町へのさまざまな地域貢献活動を行っています。例えば、町の「自然休養村管理センターホール」の椅子が老朽化していることを受け、高齢者にも優しい布地の椅子100脚を寄贈しました。町内にあるレジャー施設の大正池グリーンパークにも、アウトドア用のリクリエーションチェアを寄贈しています。

また、創業期からお世話になった井手町には寄付を行っています。創業140周年を記念した寄付については、2013年3月に国から紺綬褒章を受けました。寄付は、井手町のまちづくりと活性化に活用される予定です。

そのほか、井手町の防犯協会や交通安全協会から要請を受け、30年以上にわたって、通学する学童の道路横断時の声かけや誘導、交通安全週間での啓発活動にも取り組んでいます。



井手町の汐見町長(右)から村田秀太郎会長に紺綬褒章が伝達された



30年以上継続している
交通安全活動



自然休養村管理センターホールに
寄付した椅子

社会に資する人としての「心」を育てる。

—ワタキューグループ研修施設 「一心館」の取り組み —

「一心館」は、2011年4月に開館したワタキューグループの研修センターです。社は「心」のもと、感謝の気持ちと謙虚な姿勢で何事にも接するワタキューグループ社員を育成することを目指して設立されました。社員一人ひとりの成長が会社の成長となることを目指す、教育の場です。

新入社員は、ここで丸1年間の研修を受けます。挨拶・礼儀・規律も一から教育を受け、大学5年生のような気持ちで取り組んでいます。2013年に第2期生を送り出しました。「一心館卒業生は、礼儀が備わっていて自分のやるべきことをしっかりと理解し、積極的に取り組んでいる」という声が、配属現場から届いています。



安道社長の話に聴き入る研修生



2011年に開館した「一心館」

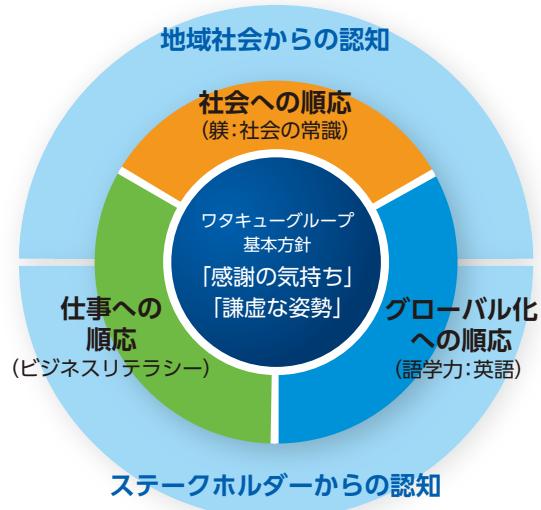


業務に必要な知識を身につける座学研修

学習と実践で順応力を強化

「一心館」で行われる育成プログラムは、図のとおりの人材ビジョンに基づきます。新入社員教育ではこれら3つの環境に対する順応力を、座学と実践を織り交ぜながら身につけ、あらゆる状況に対応できる人材を育成します。

座学研修の拠点となる「一心館」で、新入社員は1年間という時間をかけて、ビジネスマナーや外国語、業務知識を習得します。一方、実践研修では洗濯工場や医療・福祉施設での業務体験や営業同行、グループ会社の業務や、環境保全活動などのボランティア活動も体験。寮生活と共にした同期生との絆は、一生の宝となります。



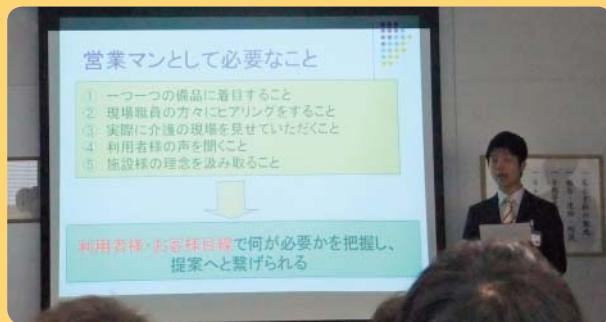
1年間で、感謝の言葉が素直に 言えるようになりました

ワタキューセイモア株式会社 東京支店 営業部 営業一課（一心館 第2期生）

櫻井 一憲

「一心館」での1年間にわたる新入社員研修では、多くのものを得ることができました。毎朝、基本方針を唱和することから始まるのですが、最初は出なかった声が出せるようになり、深いお辞儀ができるようになりました。1年ぶりに会った親からは「ありがとうって自然に言えるようになったね」と驚かれましたね。

実践研修では、さまざまな業務を体験したこと、各業務の連携をよく理解することができました。さらに、現場で働く人の思いを知ることで、「相手の立場に立って考える」ことができるようになりました。また、実習後にはその内容をプレゼンテーションするプログラムがあり、このトレーニングを重ねることで人前で堂々と発表する力がつきました。一心館卒業生としての誇りを持って、これからも業務に邁進していきます。



1年間の成果を発表

新入社員の1年間の学び

「一心館」では1年間を通して、座学と実践を繰り返しながら学びます。座学研修ではビジネスマナーなど社会人としての基礎はもちろん、コンプライアンスや財務など会社経営に必要な知識も身につけます。実践研修では、配属先で広い視野を持って働くよう、工場や病院、グループ会社の現場を体験します。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本方針												
座学	社会人基礎・グループ理解交流				業務理解		グループシナジー	実務	配属職種研修	リクルート活動	グループシナジー	総括
	コンプライアンス	会社研究			業務基礎・原価計算		グループ会社理解	財務基礎		ビジョンを描く	社会人基礎	終了プレゼンテーション
語学												
実習	福祉施設実習	ベッドメイク研修	洗濯工場実習・病院内実習	営業同行	グループ会社研修			内部統制	配属職種研修	介護実習		
	富士山清掃	森林保全支援活動								売店実習		

2013年度カリキュラムの概要

安全・安心な食を届ける。

— 安全・安心の取り組み —

日清医療食品は、特に安全・安心が求められる医療・福祉施設において食事サービスを提供しています。そのため、一般的な外食産業以上の厳しい基準や、安全に対する高いレベルでの取り組みを実施しています。

食材の調達先へは、食品管理課が取引先の工場などを監査しています。また、ご契約先事業所では食材を受け入れる際に温度や梱包状態、破損状態などをチェックしています。調理現場での衛生管理も徹底しています。ISO9001やHACCPなど国際的な品質・安全規格の要求事項を満たしながら、調理後すぐに提供するという日清医療商品独特の方法に合わせた「品質マニュアル」をもとに教育、点検を実施いたします。



毎日の楽しさとおいしさのために



咀嚼や嚥下が困難な方も、おいしく
楽しむことを可能にした「ムース食」



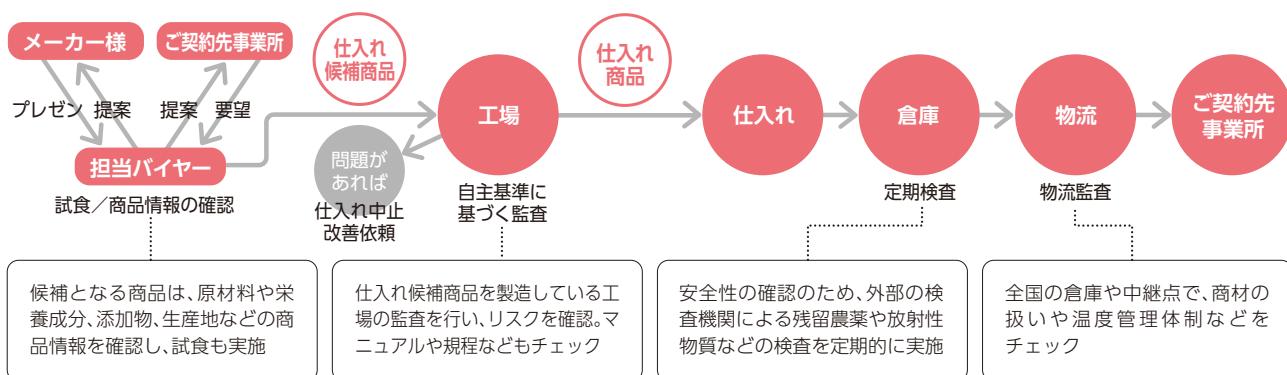
大切な行事や四季折々の味を、食を通じて
提供する「行事・イベント食」



衛生管理指導の強化を目的に設立した
衛生管理室

安全・安心を徹底するチェックの仕組み

食の中でも特に安全・安心が求められる日清医療食品では、仕入れ商品の選定からご契約先事業所に届けるまでのあらゆる段階で、厳しいチェックの仕組みを構築しています。



楽しく、安全に 食べていただくために

日清医療食品株式会社 営業本部 受託管理部 受託業務課 係長
管理栄養士 川崎 理子

私たちは、提供する料理の彩りの豊かさや旅行気分が味わえるメニューなど、楽しく食事をしていただけるよう工夫を凝らしています。

医療・福祉施設で食事サービスを提供していて、「今日のご飯はおいしかったよ」と言っていただけても、「今日のご飯は安全だったね」と言っていただくことはありません。つまり、食事が安全であるのは当たり前のこと、その上で初めて「おいしい」につながるのです。だからこそ私たちは、お客さまにおいしさをお届けするためにも、異物混入につながる恐れのあるものは、身に着けない、厨房に持ち込まないといった厳重な衛生管理に不斷に取り組んでいます。

現状に止まることなく、メニューのゼロベースでの見直しや、さらなる人材育成にも取り組み、1人でも多くのお客さまに日清医療食品のファンになっていただけるよう努めています。



人材育成を担うトレーナーたちのための研修



お客さまとともに

想定外ゼロを目指して

日清医療食品は2013年9月13日に2回目となる大規模な災害訓練を実施しました。この訓練の被害想定は東海・東南海・南海3連動地震（M8.6、震度6）により道路は一部寸断、電気・水道・ガスのインフラが寸断、備蓄用食材の使用は可と仮定。被災地への支援としてヘリコプターにて支援物資を搬送、備蓄食材と支援物資を活用し温かい食事を提供する訓練を行いました。

日清医療食品では、いかなる場合でも食事サービスの提供を継続できるよう、さらなる危機管理体制の強化を進めています。
日清医療食品災害対策の四つの柱

- ①全国13カ所に非常用備蓄倉庫の設置
- ②電気・水道・ガスのインフラが寸断されても提供できる災害時献立の考案
- ③ヘリコプター運用会社との契約締結
- ④通信手段の強化



非常時でも提供できるよう食材を備蓄



ヘリコプターを活用した支援物資の搬送



災害時献立をランタンの明かりで調理

地球環境を守るために。

— 5年間で5%の省エネ目標は達成に向け順調に推移 —

弊社は、2010年施行の改正省エネ法により、一定以上のエネルギーを使用する特定事業者指定を受けました。そこで、それまで一定基準以上の工場ごとに行っていた省エネへの取り組みやエネルギー使用の届出を、全社を挙げた取り組みに位置付けました。そして2015年3月末までの5年間で5%（毎年1%）のエネルギー原単位削減を目指す中長期目標を設定し、諸施策に取り組んでいます。

これにより、2013年報告では、生産部門において3年間で3%以上の削減を実現。目標達成に向けて順調に推移しています。

●生産部門エネルギー原単位

(原油換算kℓ/トン)



天然ガスを燃料としたボイラーへの切り替えが進む



必要な箇所に冷気を送ることでエネルギー効率を高めながら働きやすさを実現



浄化された工場からの排水

名古屋工場での取り組み例

2009年12月に設立した名古屋工場は、省エネルギーや排水浄化など環境に配慮した設備を数多く設置しています。



左上) ガラスを多く使い太陽光を工場内に多く採り入れて電気使用量を削減
右上) 廊下やトイレにはセンサーを設置し必要な箇所のみ照明が点灯
左下) 工場敷地内には太陽光発電で点灯する外灯を設置

毎年、小規模工場1つ分の省エネに取り組んでいます

ワタキューセイモア株式会社 生産本部 生産部

課長 小川 剛史 (左)

係長 高芝 宗幸 (右)

1年間で1%削減という弊社の省エネ目標は、石油に換算して約470klの削減です。これは弊社の小規模工場1つ分にも匹敵するほどの削減量で、生易しい取り組みではありません。しかし、この目標の達成は弊社の社会的責務。あらゆる手段を講じて取り組んでいます。

例えば生産部門においては、EMSローターを導入し、従来は捨てるのみであった80°C以上の使用済み洗濯温水から余熱を回収。この熱ですすぎ用の水を温めることですすぎの精度が上がり、乾燥機の稼働時間短縮につながっています。またボイラーの燃料はA重油から、10%の省エネと30%のCO₂排出削減が見込まれる天然ガスへの切り替えを進めています。

今後も、LED照明への切り替えや採光度の高い工場の設計などを推進し、さらなる省エネに取り組んでいきます。

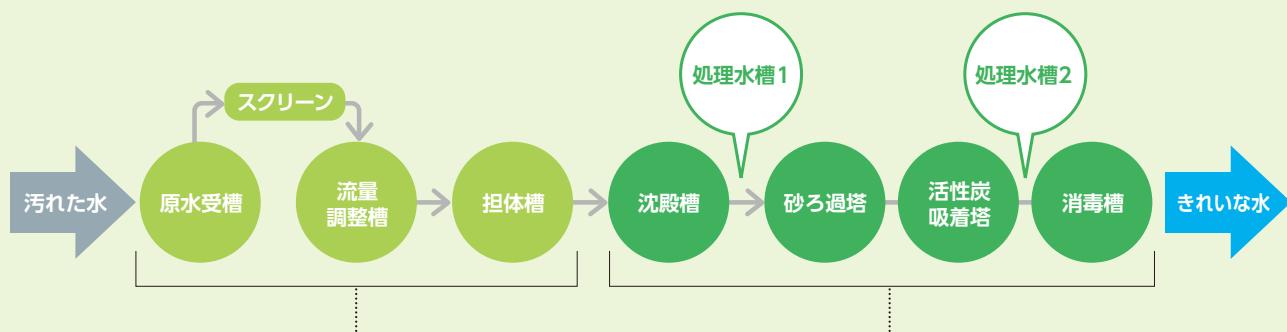


本体のみでなくバルブまで断熱材を巻き付けることで断熱効果を上げる



水の浄化

名古屋工場の排水は、近くを流れる本地川に放流されるまでに、いくつもの工程を経て浄化されます。



工場から出た排水は、いったん原水受槽に集められ、スクリーンで細かいごみを取り除いた後、流量調整槽に移されます。ここから担体槽に一定量ずつ送られた排水は、キューブ上の担体に付着した微生物により浄化されます。

担体槽できれいになった水と微生物を分離。微生物は再び担体槽に戻され、排水の浄化に使われます。水はさらに浄化するために、砂ろ過塔で細かいごみを除去し、活性炭で汚れを吸着します。

地域、社会の一員として できること。

医療と福祉に携わるワタキューグループでは、社会的課題の解決に向けて、事業活動を通じて取り組み、豊かな社会の実現に貢献しています。



明るくゆったりとした内装を採用したフロンティア薬局手稲駅前店



患者さまに優しい店舗づくりを目指します

株式会社フロンティア 薬剤本部 北海道エリア エリアマネージャー
小原 鑑善



手すり付きのスロープ、広く開く自動ドア、店内まで続く点字ブロックなど、バリアフリー化に取り組む



受け渡しカウンターにはベンチを設置し、座っての受け渡しを可能に。衝立によって、プライバシーにも配慮している



新しく導入した自動調剤棚で、調剤ミスを防止しながら効率よく調剤

フロンティア薬局手稲駅前店は、2013年8月に移転新築オープンしました。近隣には弊社の大規模な店舗もありますが、より患者さまにくつろいでお薬を受け取ってもらえる店舗づくりを心掛けました。受付などのカウンターは、低く設置して車椅子にも対応、またエントランスの手すり付きスロープや広く開く自動ドア、広々とした車椅子対応トイレなど、バリアフリー化に取り組んでいます。受け渡しカウンターは衝立で囲み、プライバシーに配慮。ベンチを斜めに設置することで、正面で対面することなく緊張感をなくす設計にしています。

また最新の機器を導入することで、効率化も進みました。ミスを防ぎながら速やかにお薬を提供できるようになったほか、社員や学生の研修にも役立っています。今後も、患者さまに優しい店舗づくりを目指していきたいと考えています。

食事の喜びと健康を考えた「食宅便」

日清医療食品株式会社 営業本部 在宅配食サービス部 課長
斎藤 政人

医療・福祉施設で食事の提供を手掛ける日清医療食品では、2012年4月に「食宅便」サービスを開始しました。在宅医療・介護の充実に軸足を置いた社会保障制度改革の流れを受け、在宅の人々にも食事サービスを提供することを社会的使命ととらえてのことです。

治療の一環としての食事づくりは弊社の本領。そこで、塩分やカロリーを抑えても、決して味は落とさない「ケアシリーズ」をラインナップに加えるなど、お客さまの健康への願いと「食事を楽しみたい」というニーズにしっかりとお応えしています。

高齢のお客さまに対しては、買い物が困難な方への支援や安否確認にも貢献しています。食事をお届けする際のコミュニケーションも、大切な仕事と認識しています。



手作業で一食ずつ盛り付け

地域・社会とともに

食宅便は、栄養バランスのとれたお食事を、ご自宅にお届けするサービスです

医療・福祉施設の食事サービスの提供に長年携わってきた日清医療食品ならではのノウハウが詰まった「食宅便」。栄養バランスとおいしさを両立させたバラエティー豊かなメニューは、お子さまから高齢のお客さままで、安心してお召し上がりいただけます。



栄養バランスの取れた食事を届ける「食宅便」には、冷凍された状態でお届けする「まとめてお届けコース」と、温かい状態でお届けする「一食ずつお届けコース」がある



塩分やカロリーに配慮した「ケアシリーズ」とその盛り付け例



「一食ずつお届けコース」には昼食と夕食がある

ソフトテニスの普及支援、 次世代育成に貢献しています。

1995年に京都府福知山市で創部されたワタキューセイモアソフトテニス部女子チームは、国内最高峰の日本リーグに所属し、全日本実業団選手権や国際大会で常に上位の成績を収めている強豪チームです。2012年には男子チームも創部され、日本リーグ優勝を目指し躍進中です。各地での技術の指導などを通じて地域貢献にも一役買っています。

また2013年9月には、12カ国の代表チームを集め第3回目となる「ワタキューカップ」をローマで主催するなど、ソフトテニスの国際普及活動に尽力しています。

第3回ワタキューカップ
(イタリア・ローマ)



国内外の大会で活躍する女子チーム



全日本社会人選手権大会で準優勝した片山・古賀ペア
(2013年9月)



創部2年目で日本実業団リーグ初優勝を成し遂げた男子チーム(2013年11月)

大会開催から全国各地での講習会まで、ソフトテニスで地域を盛り上げ貢献する

前年に引き続いて2012年12月の3日間、所属選手の出身地である北海道比布町の「君の夢プロジェクト」に参加し、地域の小中学生にソフトテニスの技術指導をしました。

また、創部の地である福知山市では、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化促進を目的とした「絆を育むスポーツコミュニティ事業」として「ソフトテニスクリニック」を実施し、コミュニティの活性化と地域の高齢者の健康づくりのお手伝いをしています。

こういったスポーツを通じての地域貢献活動も、ソフトテニス部の大きな役割です。



比布町で行われた
「君の夢プロジェクト」



ソフトテニスをメジャーにしていきます

ワタキューセイモア株式会社 女子ソフトテニス部 キャプテン

片山 洋

2013年5月にキャプテンに任命され、今、日本リーグや全日本実業団選手権での優勝を目指してチームづくりに取り組んでいるところです。監督が「雑草軍団」と呼ぶようく学生時代の実績が少ない選手も多いのですが、そこは若さと練習の質でカバーしていきます。

試合ではグループ会社の皆さんや家族の方々が応援してくれるので、とても励みになります。少しでも私たちの活躍をお見せすることで恩返ししたいと思っています。

ソフトテニスは、残念ながらまだマイナーなスポーツ。ぜひオリンピックの種目に選ばれるよう、自らが強くなってソフトテニスの魅力を世界中に伝えたいですね。



キャプテンとして強いチームづくりを目指す

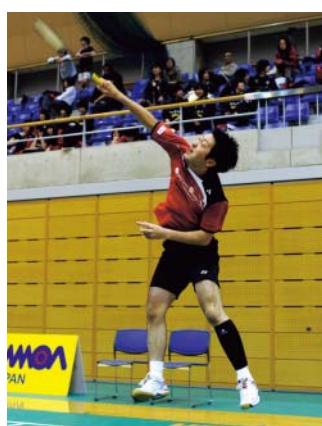
地域・社会とともに

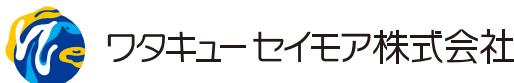
バドミントンで金メダル獲得！

北陸リネックス株式会社 営業部 松本 雅之



2013年8月にイタリアで行われた「ワールドマスターズゲームズ」(4年ごとに行われる中高年齢者のための世界規模の国際総合競技大会)において、バドミントンシングルス(35歳以上)で、元オリンピック選手や現役の各国代表選手を退けて金メダルを獲得しました。実感はなかったのですが、新聞記事を見た地元の方々から「おめでとう」と言っていただき、また仕事の契約獲得にもつながりました。会社に貢献できたのは本望です。この大会で連覇できる権利があるのは自分だけなので、帰国直後から練習に励んでいます。次の目標は2年後の世界シニア選手権での金メダルです！





〒600-8416
京都府京都市下京区烏丸通高辻下ル薬師前町 707
烏丸シティ・コアビル

<http://www.watakyu.co.jp/>

報告範囲

対象組織:ワタキューグループ

対象期間:2011年7月1日から2013年6月30日

(対象期間外の情報はその都度表記)

発行時期:2013年11月

(次回2015年11月／前回2011年11月)

詳細な情報は、ワタキューセイモアのホームページ

<http://www.watakyu.co.jp/>

またはワタキューグループのポータルサイトを
ご覧ください。

<http://www.watakyu.jp>

お問い合わせ先:

ワタキューセイモア株式会社 広報室

e-mail:kouhou@watakyu.co.jp

CSR推進実行委員会

e-mail:csr@watakyu.co.jp

「ワタキューセイモア」の社名・ロゴの由来

ワタキューの「ワタ」は創業時の製綿業、「キュー」は創業者・村田久七の名前を由来とし、「セイ」は生活・人生・生命の「生」、清潔・清純・清秀の「清」、誠実・誠意の「誠」を意味しており、これらをもっと多く提供していく「モア」と合わせたのが「セイモア」です。

ロゴマークには、生命を育む「青い地球」に「ヒトへの共感」「先進的な創造性」「広域的な発展性」というメッセージを込め、躍動するWの文字を色彩に託しています。

